

目的に合わせて新聞から情報を得、自分の主張を導き、 説得力ある言葉で表現する子どもを育てる

～「今ある世界の問題に私の考えを提案する」の実践を中心に～

飯田市立上郷小学校 菅沼 利光

一 はじめに

本校では、6年3組(さいたね学級)33名を中心に、平成17年度より総合的な学習と教科の学習を関連させたNIEの実践に取り組んできた。さいたね学級は、クラス替えのあった4年生のときより、新聞作り、パンフレット・ポスター作りなど、自分の思いを説得力ある言葉で文章表現する学習を進めてきている。

例えば、5年生のときにおこなった「子ども環境会議を開こう」では、地域に住む環境を守る活動をしている方11人にインタビューし、発表原稿を書き、パネルディスカッションを取り入れた学習発表会をおこなった。右の写真は、その発表場面の様子である。

「自分の思いを説得力ある言葉で表現する」と言っても、いくつかの乗り越えなくてはならない段階がある。思いつくままに、そのいくつかを記すと以下ようになる。

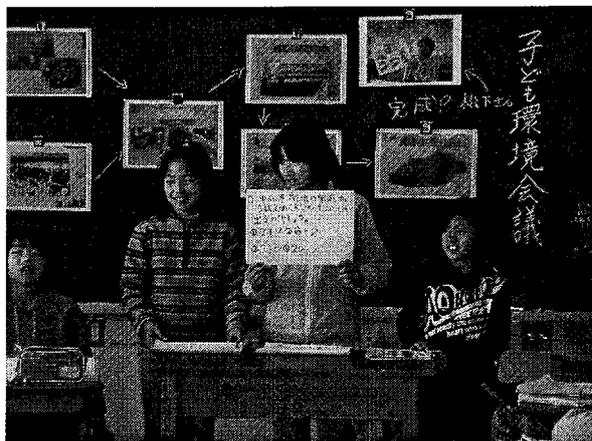
- ① テーマを持つ。(表現しようとする種の発見)
- ② テーマに沿った取材・情報集め。
- ③ 情報を整理し、自分なりの構想を持つ。
- ④ 個性ある文章を書く。
- ⑤ 表現された文章を見返し、自分の伝えたいことが読み手に伝わる文書になっているか推敲する。
- ⑥ 聞き手に自分の主張が伝わっているかどうかを意識して発表する。

「新聞を読む」を核に学習を構想し、上記の段階を考えると、どのような学習が可能になるのか。NIEの指定研究校になったこの機会に、もう一度子どもたちと、「自分の思いを説得力ある言葉で表現する学習」に取り組んでみようと考え、上記のテーマを設定した。

二 実践の概要

1 楽しんで新聞作りをする子どもを育てる ～「歴史新聞作り」から～

新聞作りの基礎(技術の習得)については、4年生のとき、信濃毎日新聞社主催の「こども新聞コンクール」に応募するに当たって、新聞社の方をゲストティーチャーにお招きし、新聞作りの講習会をおこなっている。その後、4・5・6年と3年間続けて「こども新聞コンクール」に応募し続けてきた。また、「コンクール」で得た新聞作りのコツ



を活かして、飯田市の地場産業を学習したときにはパンフレット作りをしたり、社会見学で学習した豊田工場をテーマに「豊田工場新聞作り」、椋鳩十の「大造じいさんとがん」の学習後、「椋鳩十紹介パンフレット作り」をしたりと、様々な学習の中で、新聞作りの技術を応用できるように学習を構想してきた。

そこで、6年の社会科の学習である「日本の歴史」の中に、「歴史新聞作り」を取り入れようと考えた。しかし、ただ「歴史新聞」を作っているだけではつまらない。そこで、次のような工夫をしてみた。

- (1) 4年生の社会科の学習で、飯田市の地場産業パンフレット作りをしたとき、子どもたちが発見した「ナビゲーター」の手法を、歴史新聞に取り入れる。
- (2) 歴史新聞の記事の中に、歴史上の人物との「架空インタビュー」を入れる。

2 新聞を読む子どもを育てる ～自由に読む・テーマを持って読む～

- (1) 興味関心のある記事を切り抜き、ファイルしていく。(自由に、興味のある記事を切り取り、ファイルしていく活動。)
- (2) 日本や世界の国々にある問題に焦点を当ててテーマを決めて、記事を切り抜き、自分の考えをまとめて、こうしたらどうかという「提案文」を書く学習を構想し、実践する。

三 具体的な実践の姿

1 楽しんで新聞作りをする子どもを育てる ～歴史新聞作り～

右の新聞は、「歴史新聞作り」最終号、「昭和時代」の新聞である。第1号は、「縄文・弥生時代新聞」であったが、子どもたちの新聞作りの技術(紙面の割付・見出しやナビゲーターの入れ方等)が、どんどん向上していったことがわかる。

(1) ナビゲーターについて

次頁を見てほしい。「昭和の時代」の人々の暮らしについて、資料集から「ある小学校の食事の例」を書き写し、その横と下に「ナビゲーター」を入れて、自分の思いを表現している。「ナビゲーター」からは、吹き出しが出さ

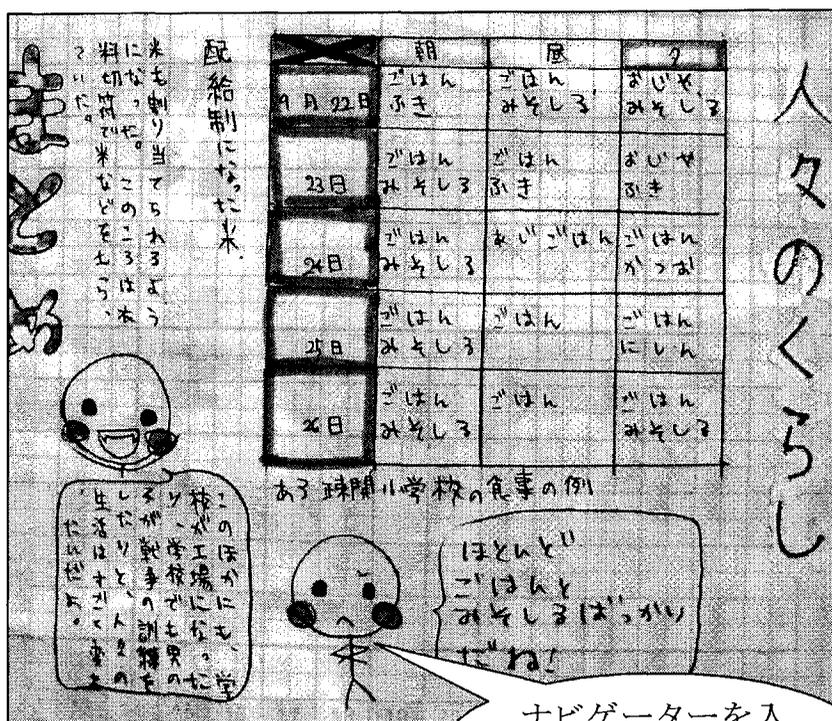


れ、次の□の言葉が記入されている。

□ ほとんどごはんのみそするばかりだね。

□ このほかにも、学校が工場になったり、学校でも男の子が戦争の訓練をしたりと、人々の生活はすぐ変わったんだよ。

このように、ナビゲーターを入れることで、子どもたちは、資料に書かれていること・引用した資料について、素直に自分の思いが表現できるようになることがわかる。



(2) 歴史上の人物との「架空インタビュー」について

この学習は、歴史上の人物に「架空のインタビュー」をすることで、その時代の特徴をどのように子どもたちがとらえているか、また、学習事項の定着はどうかをはかろうと試みたものである。この「架空インタビュー」も、号を重ねるごとに、内容が充実し、歴史学習のその子の評価にもなった。

<NY生の書いた「架空インタビュー」の変化>

□ 「奈良の大仏新聞」(第2号)より

奈良の大仏を作った聖武天皇にインタビュー

記者 こんにちは。なぜ奈良の大仏を作ろうと思ったのですか？

天皇 私は、仏教の教えによって世の中の不安を取りのぞき、国を守ろうと考え、大仏を作りました。

記者 大仏作りでは、何人くらいの方が働いていたんですか？

天皇 約260万ほどの人たちが協力してくれました。

記者 よくわかりました。ありがとうございました。

□ 「安土桃山時代新聞」(第4号)より

全国統一した豊臣秀吉にインタビュー

記者 こんにちは、全国統一について聞きたいことがあるんですが、いいですか？

秀吉 どうぞ。何から答えればいいですか？

記者 では、全国統一について教えてください。全国統一とは、主にどんなことをしたんですか？

秀吉 主に、刀狩や検地など、ますや検地尺の長さや大きさをそろえたりしました。

記者 刀狩とは、いったいどのようなことを行ったのですか？

秀吉 百姓が武器を持っていると、争いや田畑の不作の原因となる。そこで、武器を持っている百姓たちに、大仏を作るための部品になると言い、武器を集めました。

記者 そうだったんですか。よくわかりました。ありがとうございます。

□「戦争中～戦後新聞」(第8号)より

インタビューコーナー

今回は、空しゅうなどにあわないように、都会から地方に集団そかいした子どもたちにインタビューしました。

記者 こんにちは。今日は、集団そかいのことについて聞きにきました。よろしくお願いします。

子 よろしく申し上げます。

記者 さっそく質問です。集団そかいとは、いったいどんなことなんですか？

子 集団そかいとは、地方に身寄りのない子どもたちを中心に、学校ごとに集団でひなんさせることです。

記者 学校の友だちと一緒にだったということは、楽しかったんですか？

子 いいえ。ぜんぜん楽しくありませんでした。朝、起きるとすぐに、体操やそうじなどがあり、遊ぶ時間などもあまりありませんでした。

記者 では、一回の食事の量は、どのくらいだったんですか？

子 とても少なく、多いときでも、二品くらい。少ないときは、なんとごはんだけでした。とてもお腹がすいて、遊べるような状態ではありませんでした。

記者 そうなんですか。よくわかりました。ありがとうございます。

子 こちらこそ、ありがとうございました。

例を見てもわかるように、だんだん「架空インタビュー」の記者のインタビュー事項が増え、インタビュー記事の内容が長く、豊かになってきていることがわかる。

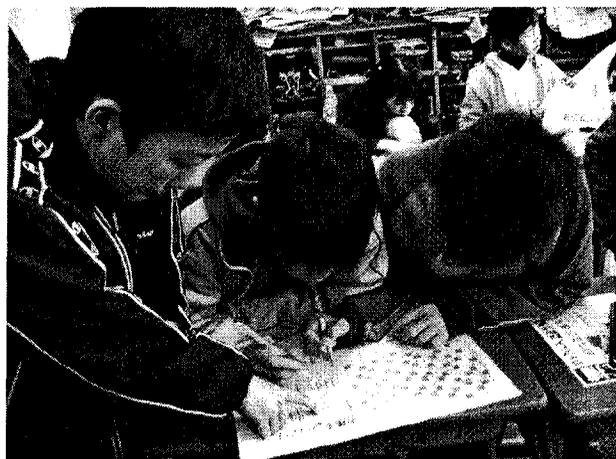
2 新聞を読む子どもを育てる

(1) 興味関心のある記事を自由に切り取り、ファイルする

9月より2か月間毎日、新聞が届けられるようになった。子どもたちは、時には、新聞にあるクロスワードパズルを解いたりしながら、自分の興味に合った新聞記事を切り抜き、ファイルしていった。下の写真は、頭を寄せ合ってクロスワードパズルを解く子どもたちの写真である。以下に、子どもの日記を紹介する。

<9月26日(月)付 WSさんの日記>

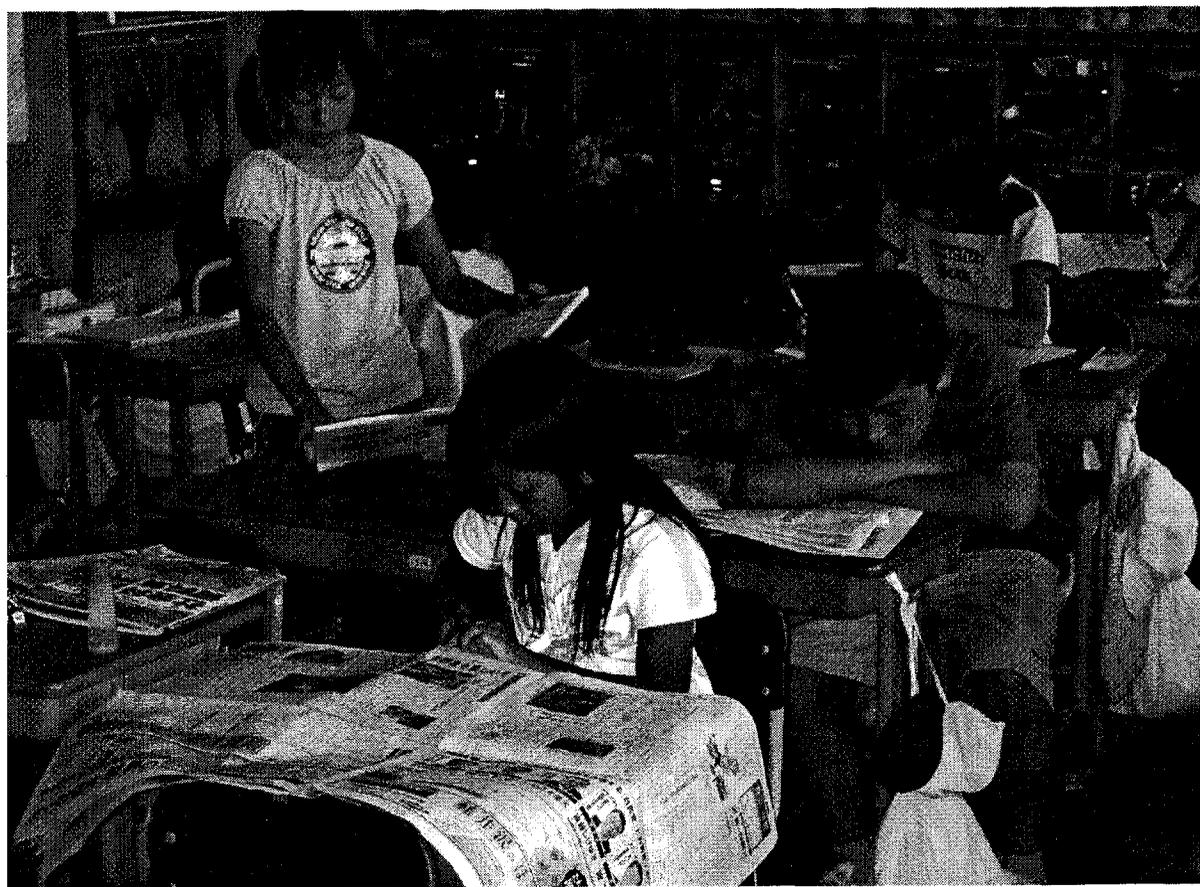
今日の6時間目に、「新聞を読む」という学習をしました。今日入った新聞もあって、たくさんの新聞がありました。新聞の中に、犬の記事があったので、となりのYNさんにみせたら、「ちよーだい。」と言ったので、あげました。私もそのページにあるカンガルーの記事を切り取りました。おもしろい記事があったら、みんなに紹介してあげたいなと思いました。



前頁の日記などを載せた「新聞を読む」学習の様子を学級便りで紹介していくと、家庭からも反響があり、何冊かの連絡帳が届けられるようになった。家庭で新聞を読んでいる子どもたちの様子を知らせるお便りがその内容である。

〈9月28日付 RG男の保護者からのお頼り〉

わが家は新聞が大好きで、主人が2紙、私が1紙、長いお休みには、子ども新聞もとります。子どもは自分の好きなどころしか見ませんが、それも良し。写真や見出しから興味を持って読んでいる姿をたまに見ます。RG男は、サッカーの試合結果を切り取り、ノートに貼っていき、優勝チームが決まるまでを新聞から知るということを一時していました。四月に「さいたね(註 6年3組学級通信の名前)」で新聞の授業のことを読んで、興味をもてたらいいと、誘ってみました。クラスで新聞の授業が始まってからは、みんなで新聞をのぞき込むことが多くなり、主人が朝、新聞を読んでいて、「おっ!!」と声を挙げると、「なに?なに?」と子供達が寄って行きます。朝食時には、子どもが読んでほしい記事を私が読み、それについて話すので、気が付くと、一時間も食卓にいることがあり、幸せな時間です。(後略)



(2) 「今ある世界の問題に私の考えを提案する」の学習

この学習は、光村教科書教材「平和のとりでを築く」の学習に続くものである。「平和のとりでを築く」の学習で子どもたちは、教材文の後半部から、「原爆ドームが世界の人々に伝えているもの」について自分の考えをまとめ、発表し合った。この「原爆ドームが世界の人々に伝えているもの」は、教材文の筆者である大牟田稔の「平和」への

主張となっている。そこで、「平和のとりでを築く」の教材文をまねしつつ、新聞から「世界の問題」の情報を集め、その情報を整理して、「こうした方がいいのではないか」というその子なりの「提案」を含む文章をまとめ、発表する学習を構想した。以下に、「今ある世界の問題に私の考えを提案する」の学習の概要を、この学習で使用した「手引き」を示しつつ紹介する。

さいたね学級 国語の学習

『今、世界にある問題』に私の考えを提案する

～新聞を読み、集めた記事を整理して、自分の考えを主張しよう～

□ 『平和のとりでを築く』の学習が終わりました。『平和のとりでを築く』という文章は、大きく二つの段落に分けられることがわかりました。

◇ 『平和のとりでを築く』の文章の構造

前半	物産陳列館が、『原爆ドーム』として、ユネスコの世界遺産に認定されるまでの歴史の解説。
----	--

後半	『原爆ドーム』が世界遺産になったわけと、『原爆ドーム』が世界の人々の心に伝えているもの。
----	--

◇ 後半部の筆者の考えをまとめる次のようになりましたね。

② 『原爆ドーム』が世界遺産になったわけ

世界の人々の、平和を求める気持ちの強さから。

③ 『原爆ドーム』が世界の人々の心に伝えているもの

原子爆弾が人々や都市にもたらした惨害と未来の世界で核兵器を二度と使ってはいけない。核兵器は不必要だということを世界の人々に告げ、『原爆ドーム』を見る人々の心に、平和のとりでを築こうと告げている。

1 『今、世界にある問題』を新聞から集めよう

『平和のとりでを築く』の学習のとき、「今、世界にある問題」を挙げましたね。みんなから出された『今、世界にある問題』を下のように整理しました。

〈みんなが発見した『今、世界にある問題』〉

- (1) 外国との関わりの問題・・・北朝鮮の問題・中国との関係の問題
- (2) 戦争の問題・・・イラクの平和の問題
- (3) 環境の問題・・・環境破壊の問題・酸性雨の問題・ゴミの問題
- (4) 自然の問題・・・地球温暖化の問題・絶滅する心配がある生き物の問題
- (5) 医療の問題・・・鳥インフルエンザの問題
- (6) 食物の問題・・・遺伝子組み換え食品の問題・牛肉の問題

上の例を参考に『今、世界にある問題』を新聞記事から集めましょう。

□ どんなテーマで新聞記事を読み、切り取るか考えましょう。

〈私のテーマ〉

全国各地の大きな地震。

まずは、いただいた新聞を読み、どのような「世界の問題」にテーマをしぼっていくか、自由に新聞を読む時間を設定した。子どもたちは、地震の問題・大雪の問題・鳥インフルエンザの問題・広島女子殺人の問題・核兵器の問題など、新聞に載っている記事を読み、「こういう問題があるよ。」と情報交換しつつ、自分の取り上げるテーマを設定していった。

● 集めた記事の見出しを、下の四角に記入しましょう。

● 最大支援・・・復興は遅れ。
(スマトラ沖地震)

● 恐怖屋外へ逃げる市民。
(中国江西を襲った地震)

● 国内外で巨大な地震・・・
(福岡、宮城、川崎町、スマトラ沖地震)

● 激震。世界各地10巨大NEWS。
(インドネシア)

2 切り抜いた記事から、自分のテーマにぴったりの記事を二つ選びましょう

■ 注意・・・二つの記事は、関連してはいけません。

■ 選んだ二つの記事を読み返し、その記事を説明する文章を書きましょう。前に学習した「要約(一番言いたいことは何かを考え、長い文章をまとめて短くする)」を思い出し、応用しましょう。

○ 地震はいつおこるか分からないから、地震の備えもし
かりして、いつ死ぬか分からないから、毎日楽しく生きる。

さいたま学級「意見文」を書こう

-2-

○ 地震への備え ○ 地震の怖さ
○ いつ死ぬか分からない ○ 地震でのひかりの大切さ

テーマを決めたら、次は記事集めである。前頁のように、集めた新聞記事の見出しをメモし、どの記事を使って自分なりの意見文を書くか、記事の絞り込みをおこなった。

3 意見文を書こう

□ 意見文とは

意見文とは	意見文を書くための技術
① テーマについて、自分の考えを	自分のもっているテーマをはっきりさせておく
② 根拠や理由をはっきりとさせて	新聞記事に書かれた事実を要約し、読み手に事実が分かりやすく伝わるように工夫する。
③ 読み手が納得するよう提案(このようにした方がいい・問題を解決するためにはこういう方法がある)する文章。	読み手がなるほどと納得する自分の考えを書く。

(1) 書き出しを工夫しましょう

これから書く「意見文」は、下のように3段落の文章になります。書き出しをどのようにしたらいいか考えましょう。

<書き出しの例>

「平和のとりでを築く」の書き出しを参考にするといいですね。

<「平和のとりでを築く」の書き出し>

広島市には、一発の原子爆弾で破壊され、そのままの形で今日まで保存されてきた「原爆ドーム」とよばれる建物がある。

世界には、除草剤や害虫に強い性質などをもった遺伝子組み換え作物を栽培し、市場に出荷している国があります。遺伝子組み換えし植物は、人間の健康に悪い影響を与えるというわさがあります。この問題について、私の考えを話したいと思います。

遺伝子組み換え食品は……(新聞記事の要約を文章がつながるように書く。)

世界には、戦争によって国の建物や水道・道路などが破壊され、生活に困っている国があります。これから、イラクという国が、今どのような問題を持ち、世界の国々は、どのような援助をしてイラクを復興しようとしているかという問題について、私の考えを話したいと思います。

イラクは……(新聞記事の要約を文章がつながるように書く。)

(2) 自分の主張をはっきりさせ、工夫して書きましょう

*このような問題に対して、私は○○○と考えます。

<まとめの文の例>

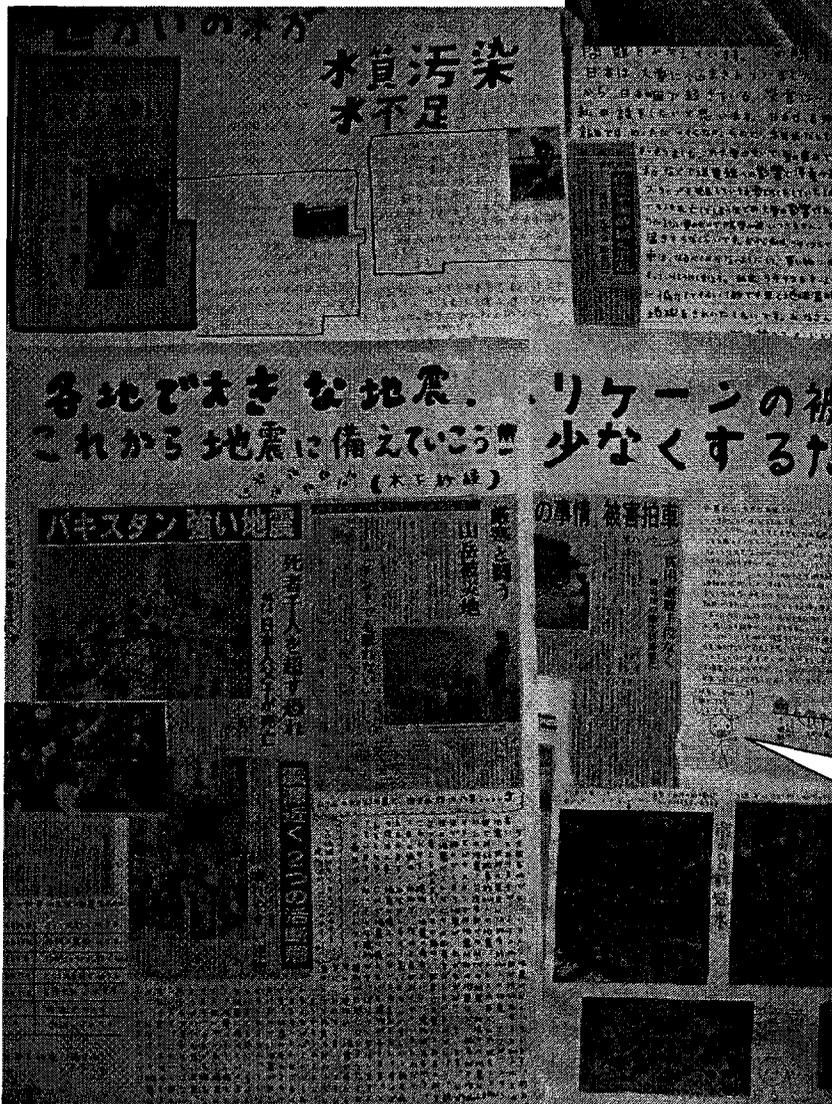
<群文集「桑の葉」から(一部改作)>

・私は、普段の生活の中にある「親切」に気が付けるような人になっていきたい、なりたいと思っています。(中略)もしも世界中の人に、私の声が届くならば、私は世界中の人に、こう聞いてみたいと思います。「あなたにとって『親切』とはなんですか?。」

・虫たちの声や葉のすれあう音を聞いてほしい。どれだけ「心かせ平和になるか」。この、目の前に広がる自然を忘れたくない。車の利用は最低限にしたり、洗剤も節約したり、私たちにできることをして、かけがえのない自然、地球を大切にしていきたい。自然のすばらしさを、世界自由の人が、もう一度考えてほしい。

自分なりの意見文を書いて、その意見文を記事とともに模造紙や画用紙にまとめる学習をした。まとめに使用する用紙については、新聞記事の大きさや量も考慮し、模造紙か画用紙のどちらかを選べるようにした。子どもたちが迷っていたのは、書き出しと提案。そこで、「書き出し」や「提案の文」のモデルを郡文集「桑の実」から引用し、子どもたちに示した。

右の写真は、記事を整理し、自分なりの意見文を書いた後、発表のためのポスターをまとめている様子である。



出来上がったポスター。ナビゲーターも入れてあります。

〈MT生の書いた意見文〉

ハリケーンの被害を少なくするために

世界には大きな台風「ハリケーン」に悩む人々がたくさんいます。その人々を救うために、被害を少なくするためには、どうしたらいいのでしょうか。ハリケーンは、主に米国(アメリカ)の方で起こることが多いです。ハリケーンはとて大きく、日本を包んでしまうほどの大きさです。そ

